

れきはくのアシあと

11月12日(日)に「29周年開館記念イベント」を開催しました。例年大好評の「はに坊のどんぐりマルシェ」を今年も実施。今年は昨年よりも多い40の出店者の方に、県内各地から集まっていただきました。肝心の天気は、雨…。昨年に続き2年連続の雨天スタートになりましたが、午前中のうちに雨は止み、何とかそのまま天気もってくれました。ワークショップや体験、雑貨や食べ物の販売など様々なジャンルの方に来店いただき、とても賑やかなマルシェとなりました。また、開館記念日恒例の展示室無料開放とおもち配りも好評で朝からたくさんのお客様が来館されました。



歴博友の会による裂き織り体験



館長がおもち配り

来年はいよいよ開館30周年。節目の年を迎えます。今年以上に来館者の方にも出店者の方にも楽しく過ごしていただけるイベントを目指します。また、マルシェ以外にも何かできないか模索しながら準備してまいります！

れきはく歴史文化講座ご案内

2024.1 - 2024.3

特別展「瀬戸内海ツーリズム」関連講座

- 講座番号① **ビーチコーミング観察会+創作体験** ● **現地集合**
募集10名
 日時:2月24日(土)13:00~16:00(予定)
 参加費:300~500円
 対象:小学生~一般 ※小学生は保護者同伴
 会場:扶桑会館・扶桑海岸(伊予市)
 【締切】2月10日(土)
- 講座番号② **サテライト講座「大島島四国の歴史・現在・未来」** ● **現地集合**
募集50名
 日時:3月2日(土)13:30~15:00
 講師:松花 菜摘氏(今治市村上海賊ミュージアム)
 大本 敬久(当館学芸員)
 会場:今治市村上海賊ミュージアム
 【締切】2月17日(土)
- 講座番号③ **ちりめんモンスターを探せ!**
募集20名
 「ちりめんじゃこ」たちに混ざっているおもしろい生き物を観察しよう
 日時:3月9日(土)13:30~15:00
 講師:小林 真吾氏(愛媛県総合科学博物館)
 参加費:300~500円(予定)
 対象:小学生~一般 ※小学生は保護者同伴
 【締切】2月24日(土)
- 講座番号④ **近世の瀬戸内を旅するー「讀予日記」を中心にー**
 日時:3月10日(日)13:30~15:00
 講師:井上 淳(当館学芸課長)
- 講座番号⑤ **絵でみる瀬戸内海**
 日時:3月16日(土)13:30~15:00
 講師:喜安 嶺氏(愛媛県美術館)
- 講座番号⑥ **地質からみる瀬戸内海の風景**
 日時:3月30日(土)13:30~15:00
 講師:山根 勝枝氏(愛媛県総合科学博物館)

- **歴史講座**
 講座番号⑦ **源氏物語講座「紫式部の少女時代と父に伴われての越前行き」**
 日時:3月23日(土)13:30~15:00
 講師:伊井 春樹(当館名誉館長)
- **古文書講座**
 講座番号⑧ **古文書からみる村上海賊 1**
 日時:2月18日(日)13:30~15:00
 講師:川島 佳弘氏(愛媛大学法文学部)
 講座番号④ **古文書からみる村上海賊 2**
 日時:3月17日(日)13:30~15:00
 講師:川島 佳弘氏(愛媛大学法文学部)
- **民俗講座**
 講座番号⑨ **木と人間ー生物多様性と人々の暮らしー**
 日時:1月13日(土)13:30~15:00
 講師:松井 宏光氏(松山東雲短期大学名誉教授)

受講時のお願い

- 感染症の状況により、日程・内容が変更・中止となる場合があります。
- 講座の写真撮影、録画・録音はご遠慮ください。

申込方法

希望する講座名・講座番号とご住所・お名前・年齢・電話番号など必要事項を記入し、当館HPの講座申込フォーム・ハガキでお申し込みください。(各講座の応募締切日まで)
 ※締切日の記載がない講座は先着順で、定員(各80名)まで受け付けます。

お問い合わせ

企画普及グループ・歴史文化講座係
 TEL(0894)62-6222 FAX(0894)62-6161

展示スケジュール 2023.12-2024.3

2023 12	テーマ展 「似ている、ちがう?ー出土品から歴史を考えるー」 2023年12月9日(土)~2024年4月7日(日)	新常設展 密●空と海ー内海清美展 常設展 えひめの歴史と文化
	テーマ展 「日本の切手と葉書」 2023年12月9日(土)~2024年1月28日(日)	
	テーマ展 「四国歩き遍路の旅ー金盛弥版画作品展ー」 2023年12月9日(土)~2024年1月28日(日)	
2024 1	新春イベント 1月2日(火)・3日(水)	
2	テーマ展 「おひなさま」 2024年2月17日(土)~4月3日(水)	
	特別展 「瀬戸内海国立公園指定90周年記念 瀬戸内海ツーリズム」 2024年2月17日(土)~4月7日(日)	
	おひなさまイベント 3月2日(土)・3日(日)	

ご利用案内

● **開館時間** 9:00~17:30(入館は17:00まで)

● **休館日** 月曜日 第1月曜日は開館、翌火曜日が休館。(下記カレンダーをご参照ください)

● **観覧料**

	区分	一般	団体(2割引)
常設展 (テーマ展含む)	大人(高校生以上)	540円	440円
	小・中学生	無料	無料
	65歳以上	280円	230円
新常設展	観覧無料		

※特別展の観覧料はその都度定めます。 ※団体は20名以上です。
 ※未就学児は無料です。
 ※テーマ展をご覧いただくには、常設展観覧料が必要です。

Museum Calendar 2024.1-3

1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6		1	2	3					1	2				
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	3	4	5	6	7	8	9
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	10	11	12	13	14	15	16
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	17	18	19	20	21	22	23
28	29	30	31				25	26	27	28	29			24/31	25	26	27	28	29	30

愛媛県歴史文化博物館
 MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE

管理運営:指定管理者 いよてつ総合企画
 〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2 電話:0894-62-6222

【ホームページ】 <http://www.i-rekihaku.jp>

●発行日 令和6年1月1日 ●編集/発行 愛媛県歴史文化博物館

愛媛県歴史文化博物館

No.116

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture News

令和5年度特別展

瀬戸内海国立公園指定90周年記念

瀬戸内海ツーリズム

令和6年

2.17(土) ▶ 4.7(日)



「瀬戸内海一周は、面白い旅だ。」

文豪・田山花袋は、瀬戸内海を度々船で渡り、その風景を絶賛しました。

海上交通の大動脈として我々の生活を支えている瀬戸内海。豊かな自然や多島美が評価され、昭和9年(1934)3月16日、瀬戸内海国立公園として指定されました。そして令和6年(2024)に指定90周年を迎えることを記念し、瀬戸内海の魅力を改めて紹介する特別展を開催します。

キーワードは、ツーリズム。江戸時代から近現代まで、瀬戸内海を訪れた当時の人々は、その感動を言葉や絵、写真など様々な手法で記録しました。彼らが残した記録を頼りに、その姿、その魅力を紹介します。

また、愛媛県総合科学博物館、愛媛県美術館においても瀬戸内海をテーマにした展示が開催されます。この機会に、多様な視点から瀬戸内海の姿をお楽しみください。

右 上: 六十余州名所図会 讃岐 象頭山遠望(国立国会図書館蔵)
 中央: 瀬戸内海国立公園 佐田岬灯台(当館撮影)
 中央下: みどり丸ポスター(当館蔵)
 左 上: 中国四国名所旧跡図(当館蔵)

【観覧料】

大人(高校生以上)…500円(400円)
 小中学生・65歳以上…300円(250円)
 ※()は20名以上の団体料金
 ※他にお得な常設・特別展共通観覧券があります。

考古

こっこつ 刻骨

出土地：松山市宮前川北斎院遺跡
年代：古墳時代初頭
法量：残存長26.2cm、最大幅3.4cm
所蔵：当館保管



一部に人為的な細かい刻みがつけられたシカの角で、刻骨とよばれるものです。ウマやウシの骨を素材として使ったものも若干確認されていますが、多くはシカの角が用いられています。日本では約30遺跡で確認されていますが、愛媛県内では本資料が出土した宮前川北斎院遺跡内の岸田地区のほか、近隣の西山・岸田Ⅱ・中津地区など全て宮前川沿いの地域に集中して見つかっています。

なお、角の中ほどにある刻みの数は、他の事例では20～30本が一般的で、40本を超えるものは少なく、本資料

の44本は国内で確認されている刻骨で最も多いと思われます。

用途については、刻み部分に、何か別のモノと擦り合わせたような痕跡が認められるものも多くあることから、今でも祭りや芸能に使われている「ささら」のような楽器であったとする説がありますが、はっきりとしたことは分かっていません。

ただ、シカの角は、毎年生えかわっていくため、この再生力に、当時の人たちが、神秘的な力を感じ、身につけてまじないや、権威の象徴として利用したとも推測できます。

いずれにしろ、実用的な道具というよりは、祭祀的な道具であった可能性が高いと考えられます。

(専門学芸員 亀井 英希)

民俗

金盛弥《四國第四十五番 岩屋寺》 (四國八十八カ所霊場 山門)

年代：平成12(2000)年～同20(2008)年
法量：はがき(10.0cm×14.8cm)
所蔵：当館蔵

四国歩き遍路の旅で金盛弥氏は四国遍路を題材とした版画作品(絵葉書)を制作されています。金盛氏は制作の動機について「初めての歩き遍路で、四国八十八箇所霊場の山門はすべて特徴的であり、どの寺でもその姿を変えて現れることに、版画の制作心をくすぐられ、全山門を彫ってみたい」と語っています。

シリーズ「四国八十八カ所霊場 山門」87点は金盛氏の代表作です。作品を鑑賞すると、四国霊場の山門の種類は多種多様な姿をしていることがよくわかり、興味を惹かれます。

愛媛の札所を例にすると、楼門(第51番石手寺等)、八脚門(第53番圓明寺等)、唐門(第47番八坂寺)、鐘楼門(第45番岩屋寺等)、高麗門(第50番繁多寺)、神仏習合の面影を残した鳥居(第41番龍光寺)、山門がない札所(第46番浄瑠璃寺等)などがあります。

札所の入り口となる山門は、歩き遍路道沿いに位置しますが、マイカーや団体バスによる巡拝の場合、参拝のルートが異なるため、山門を通らない札所(第60番横峰寺等)もあります。

金盛氏の作品は、札所を構成する主要な建造物にスポットを当て、独自の視点で描かれており、四国霊場の札所には様々な見どころがあること、そして、自分の感性でじっくりと四国遍路を楽しむことの素晴らしさや、四国路には無限の魅力が存在することを示唆してくれます。

(専門学芸員 今村 賢司)

※「四国八十八カ所霊場 山門」シリーズは、テーマ展「四国歩き遍路の旅—金盛弥版画作品展—」で展示します。



テーマ展のご案内

常設展観覧料
(テーマ展含む)

大人(高校生以上)：540円(440円) / 65歳以上：280円(230円)
中学生以下：無料 ※()は20名以上の団体料金。

似ている、ちがう? —出土品から歴史を考える—

愛媛県歴史文化博物館には、発掘調査等で見つかった出土品が、およそ20,000点保管されています。その中には、粘土を素材とした土器や、石を素材とした石器など、それぞれ同じ素材で作られたものの中でも、形や色、用途などがちがっているものも多くあります。ではなぜこのようなちがいが生まれたのでしょうか。

今回の展示では、当館が保管している出土品の土器や石器のうち、似たようなものを比較展示することにより、皆さんに似ている点やちがっている点を見つけてもらい、その要因をいろいろ考えていただきたいと思えます。このことは、出土品を研究対象とし、歴史を考える考古学の基本でもあります。本展を開催することにより皆様にとって出土品がより身近なものとなり、昔のことを考えていただけたら幸いです。



須恵器坏(西条市池の内遺跡出土)
奈良時代、当館保管



土師器坏(今治市八町遺跡出土)
平安時代、当館保管

令和5年 12月9日(土) ~ 令和6年 4月7日(日)

●会場：考古展示室 ●料金：常設展観覧料

日本の切手と葉書

当館がこれまでに収集してきた切手や葉書の中から、1840年にイギリスで発行された世界初の切手である「ペニー・ブラック」と「ペンス・ブルー」、明治4(1871)年に発行された日本初の切手である「竜文切手」や翌年に発行された「竜銭切手」のほか、お正月にあわせて昭和10(1935)年に発行された日本初の年賀切手「富士」(渡辺華山)や昭和24(1949)年に発行された日本初のお年玉付き年賀葉書など、多種多様な切手と葉書の世界を紹介します。



1871年発行の竜文切手
(当館蔵)



1935年発行の年賀切手
(当館蔵)



1949年発行のお年玉くじ
付き年賀葉書(当館蔵)

令和5年 12月9日(土) ~ 令和6年 1月28日(日)

●会場：企画展示室 ●料金：常設展観覧料

四国歩き遍路の旅—金盛弥版画作品展—

金盛弥(かなもり・わたる)氏は、平成12(2000)年以来、四国遍路を歩いてまわり、心に残った八十八箇所の札所のたたずまいや、別格・番外霊場、遍路道の風景などを、版画で描いた絵葉書作品を精力的に制作されています。

金盛氏の版画作品は、歩き遍路ならではのユニークな画題が多く含まれ、四国路のさまざまな風景が独自の視点で捉えられ、墨刷りや多色刷りの美しく調和された色彩で表現されています。平成28(2016)年に朝日新聞地方版記事「巡礼四国遍路」の連載、日本遺産認定記念で発行された日本郵便記念切手「四国遍路」の台紙に採用されるなど、全国的に注目されています。

本展では、金盛氏から当館に寄贈された四国霊場八十八ヶ所シリーズ「山門」「大師堂」「塔」「四国別格霊場」「番外霊場」「へんろ道小景」「高野山町石道」などの代表的な作品と最新作を紹介します。



金盛弥《四国番外 星之森》当館蔵

令和5年 12月9日(土) ~ 令和6年 1月28日(日)

●会場：文書展示室 ●料金：常設展観覧料

おひなさま



次郎左衛門雛・犬宮(個人蔵・当館保管)

春の訪れとともに、3月3日のおひなさまを飾る上巳の節句がめぐってきます。上巳の節句は、けがれを祓い人形を流す風習と平安時代の貴族の女兒の人形遊びとが結びついて始まったと考えられています。最初は簡素な人形でしたが、江戸時代に年中行事としてひなまつりが定着すると、次第に凝ったつくりになり、付属の人形も増えて華やかなものになっていきました。

当館では今年もひなまつりを祝って、西条藩松平家の雛飾りをはじめ、次郎左衛門雛、古今雛、御殿飾り、明治天皇の変わり雛など、多彩なおひなさまの姿を紹介します。春のおだやかな一時、博物館の愛らしいおひなさまをどうぞお楽しみください。

令和6年 2月17日(土) ~ 4月3日(水)

●会場：文書展示室 ●料金：常設展観覧料